

# 取組事例の紹介（長野県 砂防課）

令和7年2月12日

## 【取組事例】 ②被害対象を減少させるための対策

激甚化する災害に備えるため、住民が災害を地区の課題として捉え自ら行動する意識付けが重要と考えています。地域の防災力を高める取組として、「我が事として捉える防災意識の醸成」と、「地区防災マップの作成支援」を実施しています。

### ◆我が事として捉える防災意識の醸成(赤牛先生派遣事業)

- 避難の基本「自分の命は自分で守る」を説く赤牛先生が、県下各地の公民館などで防災教育を本格展開
- 赤牛先生は、地域に根ざし、土砂災害の経験豊富な砂防専門家「長野県砂防ボランティア協会(会員約500名)」が担う
- 自身の災害経験のもと、クイズやハザードマップも使い、参加者の立場に立った、わかりやすい授業が好評
- 地区住民・役員、小学生からお年寄り、消防団・市町村の防災担当者など、幅広く参加



実施状況 (公民館)



実施状況 (小学校)



実施状況 (要配慮者利用施設)

### ◆地区防災マップの作成支援

- 地域住民が主体的に避難することを目的とした「住民主導型警戒避難体制」の構築を促進
- 住民参画による地域特性に配慮した地区防災マップの作成、マップに基づく避難訓練で検証

《取組の流れ》

住民懇談会による  
自主避難ルールの策定



自主避難ルールを周知するための  
リーフレットの作成



自主避難ルールに基づく  
避難訓練の実施・運営

